

思い込めた 2枚の写真

前橋

原爆の悲惨さを次の世代に伝えようと、資料展「ヒロシマ・ナガサキを忘れない」へ。

原爆の惨禍 忘れない

資料展で絵や写真紹介

問い合わせは事務局
027-2336-0693



原爆の図
原爆 少年・少女

い 子どもたちに核のない未来を」が13日、県庁で始まる。16日まで。

被ばく者が描いた絵や当時の写真などパネル約120点が並ぶ。前橋空襲の体験記や丸木位里・俊夫妻の「原爆の図」の原寸大レプリカも飾られる。写真。

同展は県平和運動センターなどが実行委員会を立ち上げ、企画した。事務局次長の神垣宏さん(80)は「若い世代に見てもらいたい。当時を知ってもらうことで、核兵器廃絶の機運を高めたい」と話した。



ポール使った 歩き方を指導

高崎

高崎市下之城町に「ぼっぼ薬局」を開業するアンドウ薬局は10日、周辺地域への貢献活動として「ノルディック・ウォーク体験会」＝写真＝を開き、7～79歳の18人が



参加した。

全日本ノルディック・ウォーク連盟の伊藤真理子さんが講師を務め、膝や腰への負担を軽減する正しい歩き方を説明した。その後、参加者は実際にポールを使って町内を歩いた。

参加した40代女性は「普段運動不足なので体を動かすイベントはうれしい」と話していた。主催した安藤俊哉社長は「地域住民の健康をサポートできるイベントを今後も定期的に企画したい」と話した。

五村

2015年5月にオープンした道の駅「玉村宿」(玉村町上新田)の来場者が10日、100万人に到達した。記念の100万人目になったのは新井恵子さん(67)＝富岡市七日市＝で「好きな商品もあってよ

道の駅「玉村宿」 来場者100万人



100万人目の来場者となった新井さん(中央)

く利用している。とてもうれしい」と喜んだ。

新井さんは午前10時ごろ、夫婦で道の駅を訪れた。角田紘二町長と町の公式キャラクター「たまたん」がお祝いに駆け付け、たまたんの縫いぐるみと上州牛が贈られた。

稽古や試合で 技術高め合う

新町剣道大会

高崎

第48回新町剣道大会(新町地区体育振興会主催)が、高崎市の新町住民体育館で開かれた。写真。新町剣道クラブと、招待を受けた高崎剣道教室の小中学生50人が稽古や紅白試合を行い、互いの技術を高め合った。



参加者は1時間ほど。大会は子どもの健全育成を図ろうと、毎年9月に開かれている。